



## 「知足者富」の境地に…

校長 永井 有司

錦秋の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。2学期が始まって1か月余りが過ぎました。落ち着いたスタートを切ることができ、ありがたく思う日々であります。

夏休み前後は、猛烈な暑さに閉口してしまいましたが、9月は涼しく過ごしやすい日が続くこともありました。勝手なもので、気温が上がると「暑い！暑い！早く涼しくなってほしい」と文句が聞こえ（言いたくなる気候でしたが）、気温が下がると「寒い！寒い！夏の方がよかった」と聞こえてきます。私は、どちらかと言えば冬より夏の方が好きですから、秋は冬に向かっていく季節として、何やら物寂しい思いがしてしまいます。けれども、体を動かすには最適ですし、食べ物も美味しいです。その季節ごとのよいところを探して楽しむという余裕がほしいものだなと思います。それは教育現場で子どもたちを見るのも同じで、どうしても目についてしまう欠点ばかりを追うのではなく、それぞれのよいところを見付けて伸ばすことが求められています。普段の生活も教育と密接に結び付いているのだと思わされることしきりです。

夏休みに入ってすぐの頃です。「狭山市の稲荷山公園でヤマユリが見頃」という新聞記事を見付けましたので、見に行きました。記事には「1000株ほどの花が……」とあったので期待していたのですが、猛烈な暑さのためか開花が前倒しとなってしまう、殆どが咲き終わってしまっていました。公園内を探し回ったあげく、ようやく斜面に一輪だけ咲いているのを見つけました。たくさんの花が咲き乱れているのも感動しますが、健気に咲いているヤマユリの花を見て本当に感動してしまいました。「ヤマユリよ、わたしのために(?)咲いていてくれてありがとう」。妻は、「あなたが一輪の花に感動している姿を見て嬉しい気持ちになった」と言っていました。その言葉を聞いて「ものはとらえ方によっていくらでも変わるものだなあ」と思いました。同じ境遇にあっても不満や不幸を感じる人もいれば、満足や幸福を感じる人もいます。「その人の幸せは、自分自身の心の中にある」とはよく言ったものです。ふと、老子の「知足者富」（足るを知る者は富む）という言葉思い出しました。学校現場では、よく「豊かな心」という言葉を使いますが、本当の意味で心豊かに生活することは非常に難しいのだなと思わされます。改めて、「豊かな心」とはどのようなものなのかを子どもたちと一緒に考える機会をもちたいと思いました。



本校の池に咲いたハスの花



一輪のヤマユリの花

**心温まるお話**……つい先日、地域の方からお電話をいただきました。雨の日にベビーカーを押して歩いておられた時のこと。お子さんの靴が落ちてしまったそうです。それを、青いパーカーを着た中学年くらいの男の子が傘も差さずに拾って届けてくれたそうです。その方は、「名前も聞かずに別れてしまったので、感謝の気持ちを伝えたい」とお電話をくださったとお聞きしました。わたしは、お電話自体も嬉しかったのですが、本校の子が当たり前のように善行を行っていることを教えてくださいましたことにも感謝の気持ちを抱きました。「自分さえよければいい」というような風潮が蔓延している中であって、子どもたちのすくすく育っている姿が見られることほど、我々学校現場に勤めている者にとって嬉しいことはありません。勉強は勿論大切なことですが、それだけでなく心が育つことの方が豊かに生きる上では必要なことであると改めて思わされる一幕となりました。